

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	物流・産業	27年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 港営課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト				
事務事業名	飛島ふ頭物流効率化モデル事業(集中管理ゲート)の推進	延伸	維持	維持	連絡先	052-654-7871	
目的	対象(誰・何を)	飛島ふ頭内の道路渋滞、ゲート待ち				事業期間	平成20~29年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	飛島ふ頭内の道路渋滞、ゲート待ちの解消等を目的として、集中管理ゲートを整備し、効果の検証を行い、本格運用を図ります。					
概要	国・港湾関係者と連携し、飛島ふ頭内の各コンテナターミナルのゲート業務を一箇所に集約する「集中管理ゲート」をモデル事業として整備・運用しており、関係者と協力し、効果の検証を行います。					根拠法令等	
28年度の実施予定	国が全国的に集中管理ゲートを計画・設計する際の指針となる技術的な検討を行うことから、港湾関係者と連携し、必要なデータを収集して、引き続き事業の有効性及び効率性などの効果の検証を行います。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連シート	

2 DO(実施)

28年度に実施した内容・結果	国・港湾関係者と連携し、名古屋港飛島ふ頭物流効率化検討委員会や集中管理ゲートワーキンググループ(WG)において、集中管理ゲートを計画・設計する際の指針となる技術的な検討を実施しました。また、必要なデータを収集して引き続き、事業の有効性及び効率性などの効果の検証を行いました。					
コスト	単位	26年度	27年度	28年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	
人件費	千円	3,852	4,098	4,004	3,985	
合計	千円	3,852	4,098	4,004	3,985	

3 CHECK(検証)

指標名	26年度	27年度	28年度	最終目標	29	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
検討会・作業部会の回数(回) (単年度管理型)	目標	5	5	6	6	集中管理ゲートWG4回 名古屋港飛島ふ頭物流効率化検討委員会2回 計6回	
	実績	5	4	5			
	事業進捗状況(28年度)		目標値を去り回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	検討委員会・WGの回数については、目標回数には達しませんでした。予定されていた議事は滞りなく終了しており、検証は進んでいます。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	集中管理ゲートには、ゲート業務の平準化、処理能力の向上や渋滞解消等の効果が期待されており、国のモデル事業として行われる技術的な検討及び効果の検証について、港湾管理者として関与していく必要があると考えています。				
有効性	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	集中管理ゲートの本格運用には、ゲート機能集約の取り組み方針の確立が必要になります。検討委員会やWGは、目標回数に達していませんが、関係者間で十分な調整が図られ、議事は滞りなく終了しており、検証は進んでいます。				
効率性	期待どおりの成果が得られているか?	○	モデル事業の事業スキームは適正であり、関係者間の調整や検討を行う検討委員会やWGを活用しているため、経済的と考えており、本組合としても積極的に効果の検証に関与する必要があると考えます。				

4 ACTION(取組)

施策評価結果	29年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	国が、全国的に集中管理ゲートを計画・設計する際の指針となる技術的な検討を行うことから、港湾関係者と連携してデータ収集を図る必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			29年度以降の取組
集中管理ゲートを取り巻く環境の変化による事業の有効性及び効率性などの効果について、引き続き、検証する必要があります。			国が全国的に集中管理ゲートを計画・設計する際の指針となる技術的な検討を行うことから、港湾関係者と連携し、必要なデータを収集して、引き続き事業の有効性及び効率性などの効果の検証を行います。